



▶おもちゃすくいを楽しむ児童

秋晴れの下、笑顔こぼれる

四小祭り

第四小学校(松永尚子校長)の運動場で11月27日、四小祭りが開催されました。

コロナ禍でさまざまなイベントが制限される中、子どもたちに楽しい思い出を作ってほしいとの思いから、PTA有志が実行委員会を立ち上げ、祭りを企画しました。

祭りにはPTAの家族連れや先生など約170人が参加し、お菓子すくいや的あて、ペットボトルボウリング等を楽しみました。また、祭りの最後には参加者全員でビンゴ大会をし、会場は大いに盛り上がりました。

6年生の祭りリーダー宮崎駿さん、島田裕矢さん、星先理一さんは「昼休みにみんなを楽しませるために準備を重ねてきた成果が発揮できて良かった。楽しい思い出がまた一つ増えてうれしい」と笑顔で話しました。

手にとって選ぶ楽しさ感じる

奈良の足元、熊本の手元展

株式会社ヤマチク(山崎清登代表取締役)の第2工場で11月19日からの3日間、ファッションや生活雑貨が揃う「奈良の足元、熊本の手元展」が開催されました。

このイベントは、コロナ禍によってイベントの減った町を盛り上げるとともに、若者が地元でおしゃれに触れる機会を増やし、販売の機会が減少したメーカーを支援しようとの思いから開催。会場には、山崎さんがこれまでに会った企業を中心に奈良・熊本から12の事業者が集結しました。

来場者は並んだ品を手にとりながら、作り手の商品に対するこだわりや魅力などの説明をじっくりと聞きました。

熊本市内から訪れた家族は「ワークショップ体験や珍しい品の発見など家族で楽しめた」と笑顔で話しました。



▶商品の説明を受ける来場者



▶熱戦が繰り広げられた紅白玉入れの様子

秋の晴天の下 かがやく汗

福祉スポーツ大会

南関町社会福祉協議会(佐藤安彦会長)は11月5日、令和3年度福祉スポーツ大会を農村広場で開催しました。

同大会は、町内の福祉団体・施設が一体となり、スポーツを通じて体力の維持や健康への意識を高め、参加者の親睦を深めることを目的に開催されています。

当日は、こどもの丘保育園や身体障害者福祉協議会、延寿荘などから8団体約200人が参加しました。紅白玉入れや人探し競争、お菓子食い競争など8つの種目が行われ、チームや年齢に関係なく参加者全員が自由にスポーツを楽しみました。また、笑福隊による日向ひょっとこ踊りや園児とトッパ丸による「花マルあっぱれ!トッパ丸」ダンスなども行われ、会場を盛り上げました。

児童が地元の音頭踊り継ぐ

二小「夢螢音頭」

二小の4年生15人は11月17日、環境学習の一環として久重北公民館で「夢螢音頭」を学習しました。

この音頭は20年ほど前に地域のホタルまつりで踊られていたもので、作詞・作曲・振付けなどすべて地元有志により制作。現在では祭りが途絶え、踊れる人も数人となってしまったため、地域住民が講師となって児童への伝承活動を行いました。

指導を受けた児童はみるみるうちに上達。児童の踊りに対するひたむきな姿勢に講師の指導も熱が入りました。

音頭を教わった児童は「今日教えてもらったことを発表会ではもっと上手に踊れるようにがんばりたい」と笑顔で話しました。



▶輪になつてリズムよく踊る児童



▶気合いを入れる幼年消防クラブ

みんなで火の用心!

こどもの丘保育園 幼年消防クラブ

こどもの丘保育園(菅原裕園長)の年中・年長の幼児78人で編成される「こどもの丘幼年消防クラブ」は11月16日、火災予防の大切さを広く普及し、地域の防災意識向上に貢献したとして、熊本県知事から表彰を受けました。

幼年消防クラブとは、幼児を対象にした防火団体のことで、楽しさの中から火遊びの怖さを知り、正しい火の取り扱いや消防の仕事に対する理解、防火思想の普及を目的に活動しています。

こどもの丘幼年消防クラブでは、災害避難訓練や消防訓練を実施し、年初めには出初式へ参加するなど年間を通じて活発に防災活動を行っています。

池田叶成くん(小原)は「花火をした後はバケツの水で火を消します」と元気に話しました。

歩いて発見! 町の魅力

みんなでウォークラリー

町子ども会連合会(日高香奈恵会長)は11月21日、三小校区でウォークラリー大会を開催しました。

当イベントは、町の知らない場所や自然、人との出会いを楽しみながら、地域を知ってもらうことを目的に開催。今年は34チーム176人が参加し、第三小学校を起点に設定されたコース内のチェックポイントを、コマ図を頼りに歩きながらゴールを目指しました。各ポイントでは、南関中学校の「喜ばせ隊」や高校生がボランティアとして参加し運営に協力しました。

友人と参加した八尋竜伍さん(関東)は「みんなで協力しながら頑張って歩いた。わなげが難しかったです」と元気に話しました。

なお、同大会の順位は翠の風にて紹介しています。



▶「喜ばせ隊」考案のわなげを楽しむ児童



▶表彰を受けた片山カツ子さん(右)

15年にわたりふるさとの食文化を伝承

片山カツ子さん

片山カツ子さん(関町)が11月9日に佐藤町長を訪問。くもとふるさと食の名人として長年食文化の継承に尽力し、農林水産業の振興に貢献したとして、熊本県知事から感謝状を受けたことを報告しました。

「くもとふるさと食の名人」は、郷土の伝統料理について知識・経験・技術などを有し、伝承活動に取り組む人を対象に認定するものです。片山さんは南関煮しめや南関あげ巻寿司など、県内外において町の郷土料理の普及に努め、平成19年度に熊本県知事より認定を受けました。

片山さんは「15年よくやってこれた。地域の人に郷土の食の魅力を知ってもらいたいという思いで続けてきた」と笑顔で話しました。

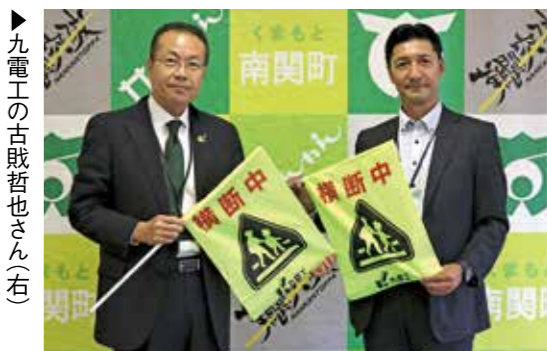
子どもを交通事故から守る

交通横断旗寄贈

株式会社九電工玉名営業所所長の古戩哲也さんが11月8日に佐藤町長を訪問。子どもたちの交通事故防止に役立ててほしいと、町へ交通横断旗50本を寄贈しました。

同グループは毎年10月に「ありがとう、日頃の感謝を届けます」をテーマに公共文化施設や福祉施設の清掃、設備点検を行うなど同グループの特色を生かした活動を展開しています。今年は従来の活動に加え子どもたちを交通事故から守るために交通横断旗の寄贈を行いました。

佐藤町長は「登下校時の子どもたちの安全・安心を守るために有効活用したい」とお礼を述べました。



▶九電工の古戩哲也さん(右)